



R6. 2. 28

志を掲げ、未来を拓く
おおらかに 高く たくましく

校報

高

雄和小学校・雄和中学校

雄

No.17



校長 菊地 篤

全国中学生人権作文コンテスト「人権擁護局長賞」受賞！今井心咲さん！！

令和6年2月7日付けさがけ新聞の報道にありましたように、第42回全国中学生人権作文コンテストで、中学2年今井心咲さんが入賞しました。この大会では、全国6,494校の中学校から、761,947編もの応募があり、その中から、作家の落合恵子さんを始めとする審査員によって厳正な審査が行われました。昨日、法務局の担当者4名が中学校に来校し、今井心咲さんに賞状が手渡されました。

今井さんの作文を掲載しますので、ぜひ、お読みください。なお、法務省のHPには、過去の作文の朗読コンテンツがあります。QRコードを掲載しますので、お子さまと一緒にご視聴いただき、「人権」についてご家庭でも話題にいただければ幸いです。



思いこみと偏見を外して

雄和中学校 2年A組 今井心咲

「ねえ、ブラックがいるよ。」

知人のAと買い物に行ったとき、私の横を歩いていたAが声を潜めてそう言った。Aの目線の先には、一人の黒人の男性。Aは、どうやらその男性を馬鹿にしているようだった。私は、そのとき胸がざわついた。男性の肌の色をからかうのは、人として最低なのではないか。自分と違う人種だからといって、そんな言い方をするのは違う。そう思ったが、それをAに伝える勇気が出なかった。Aは、純粋に男性を馬鹿にしているだけでなく、私をその言葉で笑わせようと思っていたのではないかと、思ったからだ。もし、そうなのであれば、私がAに注意することで、「私を笑顔にしたい」というAの気持ちを踏みにじってしまうような気がした。それに、Aの言葉は、きっと、男性には男性には聞こえていないだろう。私は、結局、その場を笑ってやり過ごした。

実を言うと、私は、今まで外国人が少し怖かった。自分と違う見た目、違う言語を話すからだ。自分が知らない道を通るときに、「迷ったらどうしよう」や「本当に安全なのかな」と不安を感じるように、自分が知らない・分からないことに触れるのは、やはり怖い。外国人は、容姿、言語、生活文化などが日本と異なることが多いため、私にとっては未知の存在だった。そのため、外国人を見かけると、少しドキッとして身構えてしまう自分がいた。

Aの発言がよくない内容であることが分かっていながら、Aに何も言えなかったのも、私自身も外国人を異質な目で見ていたからかもしれない。心のどこかで感じていた、男性と自分たちとの肌の色の違い。その男性を見た瞬間に、私は無意識の内に、心の中でAと同じようなことを考えていたのだろう。そこに、Aのような男性を馬鹿にした感情がなくとも、肌の色の違いに少し身構えてしまったのは事実だった。

そんな自分を変えたのは、「イングリッシュビレッジ」というイベントでの体験だった。そのイベントでは、英語でのコミュニケーション方法などを学んだ。そのときに、様々な国籍のネイティブ・スピーカーと英語で話す機会があった。私が、特にたくさん会話ししたのは、ウズベキスタン出身の女性だ。やはり、初めは少し緊張した。しかし、会話を重ねていく内に緊張は和らぎ、彼女への親しみが増し、気付けば「もっと話したい」と思うようになっていた。なぜなら、彼女と一緒に好きな食べ物の話をしたり、おすすめの映画を紹介し合ったりしているときに、心が満たされていくのを感じたからだ。彼女は、とても、明るく優しい人だった。私は、彼女と共に時を過ごす内にその人柄に気付き、彼女が大好きになった。今までの私なら、外国人である彼女のことが少し怖くて、自分から積極的に彼女と関わろうとしなかっただろう。きっと、彼女と親しくなることもできなかった。その人の人柄を知る前に、「外国人だから」という理由だけで自分から距離を取ってしまうのは、非常にもったいないことである。そのことを、私は、彼女と話して実感した。イベントが終わる頃には、私は、彼女と接することに、何も抵抗がなくなっていた。もちろん、彼女は日本国籍ではないため、私と違うものをたくさんもっていた。しかし、その違いが面白いのだと思う。自分が分からない・知らないことを学ぶことは、とても楽しい。私は、未知の世界に飛び込むことに、恐怖心を感じなくなっていた。

私は、「イングリッシュビレッジ」に参加して、国籍が違って同じ人間であることを実感した。話してみればとてもすてきな人なのに、肌の色や目の色などの見た目の違いや、普段話す言葉の違いで、偏見をもたれたり差別されたりするのは、とても悲しいことだと思う。相手が自分と違っていたとき、その違いに恐怖心を感じ、相手を自分の敵だと決めつける。自分よりも、相手の方が弱者だと思ひ込む。そうして、相手を攻撃する。これが差別の心理なのではないか。こうした差別を無くすためには、相手を「正しく理解する」ことが大切だと思う。決めつけや思いこみを無くし、相手を知ろうとする気持ち。これが必要なのだ。

今、Aが、あのようなときに黒人男性を馬鹿にしたら、私はどうするか。きっと、今なら、Aにはっきりと、「そういう言い方はよくないよ。」と言えるだろうと思う。なぜなら、私は、たとえ見た目が自分たちと違って、同じ人間であることには変わりがない、ということを知ったからだ。人との違いは、自分の大切な個性だ。その個性を馬鹿にされたら、人間ならば誰だって、悲しい気持ちになるはずだ。人を傷付けても、何も良いことは生まれない。相手の個性を理解し、尊重する。みんながそれを大切にできれば、今よりももっと、毎日が明るくなると思う。